

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 11 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2009～2011

課題番号：21242018

研究課題名（和文）「地図史料学の構築」の新展開－科学的調査・復元研究・データベース

研究課題名（英文）New Developments in Building Geographical Historiography-Scientific Research, Experimental Reproduction, and Databases

研究代表者

杉本史子（SUGIMOTO FUMIKO）

東京大学・史料編纂所・教授

研究者番号：10187669

研究成果の概要（和文）：

「地図史料学の構築」の新展開は、下記の三つの方法により、地図について検討を行った。（1）地図に初めての科学的調査を実施し使用色料を分析したことをはじめとして、近世地図の物質的特質を調査・分析した。そのうえで、内容・描写方法について多角的・組織的に調査・分析を行った。（2）近世の代表的政治地図（国絵図）を復元制作するという実験的手法により、文献分析・原物分析では明らかにできない、地図作成の実態を検討した。（3）現存近世地図についての基礎データの蓄積と検索システムの開発・公開を行った。

以上の検討の成果を盛り込んだ『絵図学入門』（東京大学出版会、2011）を執筆し、新しい地図史料学のプラットフォームとして、学界・社会に提供した。

研究成果の概要（英文）：“New Developments in ‘Building Geographical Historiography’”

investigated maps in the following three ways. 1. Surveying and analyzing the physical features of early modern maps by carrying out a scientific survey that entailed the first ever analysis of colors used in maps. Moreover, the content and descriptive techniques were surveyed and analyzed systematically and from multiple perspectives. 2. Using an experimental method of reconstructing representative early modern political maps (*kuni-ezu*) in an effort to examine the actual circumstances of map production that remain inaccessible by means of analysis of documents and original maps. 3. Developing and publishing basic data and a retrieval system for extant early modern maps.

The above results were incorporated into *Ezugaku nyūmon* (Tokyo University Press, 2011), thereby providing the academic world and the general public with a new platform for the study of map history.

交付決定額

（金額単位：円）

|        | 直接経費       | 間接経費      | 合計         |
|--------|------------|-----------|------------|
| 2009年度 | 10,600,000 | 3,180,000 | 13,780,000 |
| 2010年度 | 9,500,000  | 2,850,000 | 12,350,000 |
| 2011年度 | 6,300,000  | 1,890,000 | 8,190,000  |
| 総計     | 26,400,000 | 7,920,000 | 34,320,000 |

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・史学一般

キーワード：史料学、絵図、地図、文化財科学、記号論、日本史、近世史、復元、測量

### 1. 研究開始当初の背景

表現を、抽象的にとらえるのではなく、物質性に裏打ちされたものとし分析しようとする視点は、こんにち、さまざまな学問分野で共有されてきている。たとえば、歴史学の中の書物史（アナール派の「書物の歴史」、それを批判的に継承したシャルチエの「読書の歴史」）、また、書誌学と文学研究の融合、文字の読み書きが人間の思考様式や社会構造・価値体系にどのような影響をあたえるかを問い直す学際的潮流＝リテラシー・スタディーズなど。歴史研究は、従来から、史料の物質的側面を内容理解と不可分のものと位置付けてきた古文書学・史料学の蓄積を有している。手紙などを主要な分析対象として、用途や機能によって、使用する用語・文体のみならず、用いる紙の種類や紙の折り方、封の仕方、字配り方まで、細かく区別されてきたことが明らかにされてきたのである。

本研究の前提となる「地図史料学の構築」の新展開では、共同研究のキック・オフとして、『歴史学研究』841・842号「特集 世界のなかの近世絵図 I・II」（2008）に科研から10本の論文を公開し、学界に問題提起を行った。これらの諸論文は、『史学雑誌』「2008年度の回顧と展望」（118編第5号、2009年5月）において、「これらの諸論は「史料論」の独自性について考える上で示唆的である。史料の現物、すなわち、「モノ」に立ち戻って徹底的に分析することで、新たな研究領域と論点が開けてくることを明確に指し示しているからである。」「これらの特集で提示された視角と論点を日本近世史研究者がどのように受け止め、視野を拡大するか、我々に突きつけられた大きな課題である」と

評価された。

### 2. 研究の目的

従来、地図についての学術的検討は、主に歴史学・地理学によってなされてきた。本共同研究では、この地図学に、文化財科学・科学史・美術史・作成技術者からなる文理融合・諸職掌共同の原本調査・研究の成果を導入し、内容的側面・物的側面の両面からの分析を融合させた、新しい地図史料学の構築をめざした。

さらに地図所在情報・研究情報の集約および検索のシステムを検討し、今後の古地図の利活用の基礎条件との構築を目指した。

### 3. 研究の方法

(1) 地図に初めての科学的調査を実施し使用色料を分析したことをはじめとして、近世地図の物質的特質を調査・分析した。そのうえで、内容・描写方法について多角的・組織的に調査・分析を行った。

(2) 近世の代表的政治地図（国絵図）を復元制作するという実験的手法により、文献分析・原物分析では明らかにできない、地図作成の実態を検討した。

(3) 現存近世地図についての基礎データの蓄積と検索システムの開発・公開を行った。

### 4. 研究成果

(1) 近世日本の代表的政治地図であり、世界的に見ても、ヴァチカン美術館地図のギャラリーのイタリア地方図に比肩する、国絵図について、使用顔料を元素レベルから明らかにしたのをはじめとして、その作成の具体像を従来に比べ飛躍的前進させた。このことは、同時代地図の分析に有用であるとともに、それを可能とした社会的条件—行政組織、生産

流通、技法の習得・継承が交差する結節点として検討することを可能にした。

(2) 作成当時の技法・材料による復元は、これまで、美術品について行われ、成果を取ってきた。今回復元対象とした国絵図は、18世紀初め、将軍の命令によって全国の大名などが作成し提出したもので、国土の権威ある肖像画であるとともに、領土に関する政治情報を提供し、また全国共通の空間についての記号体系を作り出すことが必要とされた。鑑賞用だけでなく政治的意味を含み、実務に耐える機能が求められた。そのため、同時代絵画との共通性を持ちながら、描かれる要素は体系をもった記号であり、彩色にも記号としての明快さが必要とされた。このような絵図を対象とした復元はこれまで類がない。

本復元では、復元過程そのものを研究の対象とし、そこにおいてどのような困難性やアクシデントが発生しうるか、どのような対処がなされうるかを検討することを、研究目的とした。これにより、国絵図という表現がどのような考え方で作成されたか、また現在残されている国絵図にみられる作成・修正の痕跡がどのような意味をもつのかを、文献資料分析では到達できない具体性をもって検討した。

(3) 現段階での、古地図の利活用情報、研究情報を集約した、『前近代地図情報 DB』、および、東京大学史料編纂所所蔵出版地図から、主に、幕末～明治の地図作成・測量・出版に



関わる情報の抽出を行い『井印刷図データベース 試用版』を作成した。

(4) 以上の成果を盛り込んだ『絵図学入門』(東京大学出版会、2011)

を執筆し、新しい地図史料学のプラットフォームとして、学界・社会に提供した。

また、『東京大学史料編纂所研究成果報告 2011-2 「地図史料学の構築」の新展開 第 I 部 研究概要/データベース/論文・研究報告』『東京大学史料編纂所研究成果報告 2011-2 「地図史料学の構築」の新展開 第 II 部 原本調査』を刊行した。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 8 件)

①杉本史子・河村克典・山田稔・磯永和貴・横地留奈子、山口県文書館所蔵絵図群の伝来と特質、東京大学史料編纂所 研究紀要、査読無、21、2011、pp. 1-18

②杉本史子・早川泰弘・吉田直人・村岡ゆかり・小野寺淳、山口県文書館所蔵絵図群に使用された色料についての科学的調査、査読無、21、2011、pp. 19-30

③杉本史子、都市空間のなかの江戸城(シンポジウム「江戸と江戸城」、東京大学史料編纂所研究紀要、査読無、22、2012、PP. 231-235

④荒井経・染谷香理・平諭一郎・中村裕美子・杉本史子、国絵図復元—巨大絵図制作の技術一、東京藝術大学美術学部紀要、査読有、50、2011

⑤吉田直人、早川泰弘、村岡ゆかり、杉本史子、重要文化財元禄および天保国絵図に使われた彩色材料と色彩表現に関する考察、保存科学、査読有、51、2011、pp. 31-45

⑥吉田直人、早川泰弘、磯永和貴、大阪商業大学商業史博物館所蔵「河内国茨田郡藤田村文書」絵図の彩色材料調査結果、保存科学、査読有、51、pp. 211-226

⑦村岡ゆかり・中村雄祐「絵図に使われた色料—調査方法・データのまとめかた・所見—」『東京大学史料編纂所研究成果報告 2011-2 「地図史料学の構築」の新展開 第 II 部 原本調査』2011、pp. 12-19

⑧磯永和貴・鳴海邦匡、近世村絵図の史料学(1) 大阪商業大学商業史博物館蔵「河内国茨田郡藤田村文書」の村絵図を通して、大阪商業大学商業史博物館紀要、査読無、10、2009、pp. 1-30、

〔学会発表〕(計11)

- ①杉本史子、絵図の世界によるこそ一江戸時代の空間表現、招待講演、2012. 3. 18、市立市川歴史博物館
- ②杉本史子、近世日本裁判再考—社会と裁判、の総合的研究 研究班「9-19世紀文書資料の多元的複眼的比較研究」第2回国際研究会「前近代社会における秩序維持の<道具>：紛争処理の文書」、2011. 12. 9、アンカラ大学(トルコ共和国)
- ③荒井経、国絵図復元の成果、招待講演、2011. 10. 23、岡山デジタルミュージアム
- ④荒井経、国絵図をつくる—東京芸術大学国絵図復元プロジェクトチームの報告、招待講演、2011. 10. 16、土佐山内家宝物資料館
- ⑤杉本史子、国絵図と近世社会、Symposium on the Pre-Modern Japanese Collections at Yale University 2011. 10. 7、イェール大学バイネッキ図書館(アメリカ合衆国)
- ⑥早川泰弘・吉田直人、国絵図の科学的調査の成果について、科研費・基盤(A)「「地図史料学の構築」」の新展開—科学的調査・復元研究・データベース—公開研究集会、2010年9月10日、東京芸術大学・中央棟
- ⑦磯永和貴、大阪商業大学所蔵村絵図の史的調査、科研費・基盤(A)「「地図史料学の構築」」の新展開—科学的調査・復元研究・データベース—公開研究集会、2010年9月10日、東京芸術大学・中央棟
- ⑧上杉和央、歴史地図からみた江戸時代の文化、第51回歴史地理学会大会、2009年9月20日、神戸大学
- ⑨磯永和貴、国絵図研究の課題、第51回歴史地理学会大会、2009年9月20日、神戸大学
- ⑩上杉和央、歴史地図からみた江戸時代の文化、科学研究費補助金基盤A「地図史料学の構築」の新展開2009年度公開研究集会、2009年7月18日、東京大学山上会館
- ⑪荒井経、表現としての国絵図—色料と技法、科学研究費補助金基盤A「地図史料学の構築」の新展開2009年度公開研究集会、2009年7月18日、東京大学山上会館

〔図書〕(計1件)

杉本史子・磯永和貴・小野寺 淳・ロナルド=トビ・中野 等・平井松午編、絵図学入門、東京大学出版会、2011、260

〔その他〕

ホームページ等

[http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/personal/fu\\_miko/index.htm](http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/personal/fu_miko/index.htm)

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

研究代表者 杉本 史子 (SUGIMOTO FUMIKO)

東京大学・史料編纂所・教授

研究者番号：10187669

### (2) 研究分担者

荒井 経 (ARAI KEI)

東京芸術大学大学院・美術研究科・准教授

研究者番号：60361739

磯永 和貴 (ISONASGA KAZUKI)

東亜大学・人間科学部・准教授

研究者番号：10201922

上杉 和央 (UESUGI KAZUHIRO)

京都府立大学・文学部・准教授

研究者番号：70379030

小野寺 淳 (ONODERA ATSUSHI)

茨城大学・教育学部・教授

研究者番号：90204263

早川 泰弘 (HAYAKAWA YASUHIRO)

独立法人国立文化財機構・東京文化財研究所

室長

研究者番号：20290869

平井 松午 (HIRAI SHOGO)

徳島大学・ソシオ・アーツ・アンド・サイエ

ンス研究部・教授

研究者番号：20156631

### (3) 連携研究者

井上 聡 (INOUE SATOSHI)

東京大学史料編纂所

研究者番号：20302656

近藤 成一 (KONDO SIGEKAZU)

東京大学史料編纂所

研究者番号：90153717

佐野 千絵 (SANO CHIE)

東京文化財研究所 保存修復センター

研究者番号：40215885

佐藤 賢一 (SATO KENICHI)

電気通信大学

研究者番号：90323873

杉森 玲子 (SUGIMORI REIKO)

東京大学史料編纂所

研究者番号：30262140

高島 晶彦 (TAKASHIMA AKIHIKO)

東京大学史料編纂所

研究者番号：10422437

高橋 敏子 (TAKAHASHI TOSHIKO)

東京大学史料編纂所

研究者番号：8051520

中野 等 (NAKANO HITOSHI)

九州大学大学院比較社会文化研究院

研究者番号：10301350

中村 雄祐 (NAKAMURA YUSUKE)

東京大学大学院人文社会系研究科

研究者番号：60237443

鳴海 邦匡 (NARUMI KUNIOMI)

甲南大学文学部

研究者番号：00420414

村岡 ゆかり (MURAOKA YUKARI)

東京大学史料編纂所

研究者番号：00422436

吉江 貴文 (YOSHIE TAKAFUMI)

広島市立大学

研究者番号：70405489

吉田 直人 (YOSHIDA NAOTO)

東京文化財研究所 保存修復センター

研究者番号：80370998